和牛だより
第52号　令和5年3月
【発行者】公益社団法人全国和牛登録協会
京都市中京区烏丸通御池上ル
二条殿町546-2
http://www.zwtk.or.jp/

和牛新時代の幕開け

公益社団法人全国和牛登録協会　会長理事　向　井　文　雄

全国和牛登録協会の会員ならびに和牛関係者の皆様には、日頃から登録事業を通じた改良増殖に御尽力いただいておりますことにお礼申し上げます。

令和2年1月に新型コロナ感染が国内で確認されていつしか3年が経過しました。この間、感染拡大の波を繰り返し、物流の停滞やインバウンドの消滅など社会経済に大きな影響を及ぼしております。和牛生産現場でも感染防止対策が求められ、人や牛の動きがままならない状況が続く中で登録事業を継続していただき、令和3年度は登録頭数が82,445頭に達し、平成元年以降最多となりました。また、登記についても51万頭を超え、平成元年以降3番目に多い頭数となりました。これも、国や自治体、各種農業団体による生産基盤強化対策を受けて、会員の皆様の増頭に向けての取り組みの結果であり感謝申し上げます。

さて、5年に一度の一大イベントである第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会の最終比較審査が10月6日から10日にかけて、種牛会場は霧島市牧園町、肉牛会場は南九州市知覧町において開催され、41道府県が参加する過去最大の全共となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念され、開催すら懸念される時期もありましたが、5日間にわたる会期中、霧島錦江湾国立公園内に位置する風光明媚な自然に恵まれた霧島山系の会場には30万人を超える関係者と一般来場者を迎えて「和牛フェス in かごしま 2022」を盛会裡に展開することができました。最終比較審査会場には入場制限がなされる程の参観者があり、多くの人々が参加道府県の代表牛の磨き抜かれた姿と調教された牛の動きに惹きつけられたようです。閉会式には、岸田文雄首相が、総理として初めて全共に出席いただき、内閣総理大臣賞を直々に授与されました。和牛が知的財産として公的に認知され、わが国の誇る農産物として高く評価されている証であります。同時に、和牛振興エリアでは、各地の銘柄牛の食べ比べにより和牛がもたらす食文化の豊かさを体験していただき、鹿児島県内市町村の特産品の販売や畜産関係団体のブースなど和牛の歴史と伝統、魅力が広く行き渡ったことは間違いないでしょう。

第12回鹿児島全共の開催テーマは「和牛新時代 地域かがやく和牛力」を掲げてきました。鹿児島県での全共は昭和45年以来2度目の開催となります。第2回鹿児島大会のテーマは「日本独特の肉用種を完成させよう」を謳っており、半世紀の時を経て、日本の知的財産として世界に誇れる肉用種和牛にまで成長してきた今日、まさに隔世の観があります。第12回全共のテーマには、過去11回の全共を一里塚として歩んできた和牛を令和の時代にふさわしい新たな価値を備えた和牛へとレベルアップする願いが込められており、和牛新時代の幕開けと言えます。

全共では、テーマを反映した出品条件が各出品区に設けられています。また、本大会では、

新たな担い手の養成のために特別区「高校及び農業大学校」を設置しており、北海道から沖縄まで24校の和牛チームが参加し、若者が真摯に和牛の生産飼育に取り組む姿勢が、会場の参観者には感動を、全国の若人には勇気と夢を与えてくれました。

平成時代は枝肉形質の育種価を用いた選抜・交配により、各地の繁殖雌牛集団の脂肪交雑やロース芯面積の遺伝的能力が飛躍的に高まり、脂肪交雑の優れた種雄牛が多数誕生しております。その結果、平成３年には15％程度であった牛枝肉格付のＡ５等級が現在では55％程度にまでなっております。脂肪交雑の飛躍的な向上、とりわけロース芯断面の筋肉内脂肪含量は必要にして十分な水準に達しており、脂肪の量から質に加えサシの形状を改良改善する段階に至っております。今大会では、和牛力を支えている食味性をさらに高めるために新しい価値観の醸成を掲げております。「脂肪交雑＋α」の改良に向けて、食味性の見える化の一助として風味や口溶けに関わる脂肪の質を評価するために一価不飽和脂肪酸（ＭＵＦＡ）を取り上げております。さらに、ＭＵＦＡの育種価評価を全国的に普及するために「若雄後代検定牛群」に替わり「脂肪の質評価群」を新設いたしました。

肉牛の部の構成は異なりますが、肉牛の部の全出品牛166頭と宮城全共の183頭の枝肉成績を比較すると、と畜月齢は23.6ヵ月と変わらず、枝肉重量は478.8kgと3.7kg軽くなっているものの、ロース芯面積は69.9cm^{2}と3.5cm^{2}も大きくなっており、とくにＢＭＳ No.は8.3から10.3にまで向上しておりました。月齢に依存する重量はともかくとして、24ヵ月齢でも一般出荷に勝るとも劣らない枝肉を生産できる遺伝子と肥育管理技術が存在していることが実証展示されたことになります。

一方、新しい和牛肉の価値観の目玉である食味性に関わるＭＵＦＡに関しては、56.4％と前大会の54.4％に比べ２％高くなっておりますが、ＭＵＦＡのバラツキは40.8％から67.4％と極めて大きく、斉一性の観点から改良改善が急がれます。

同時に、ＭＵＦＡ測定と同じ近赤外分光測定機器を用いて、牛肉の重要な構成要素である一般理化学成分の測定を行いました。166頭の平均をみると、ロース芯断面の粗脂肪含量は50.2％と前回の45.0％より５％以上増加しております。粗脂肪含量はＢＭＳ No.が１ランク上昇するにつれて平均値として２～３％ずつ増加しており、今回ＢＭＳ No.が２ランク上昇したことに伴い、粗脂肪含量が増加したものです。ただ、最大値は69.7％、最小値は23％とバラツキも極めて大きくなっており、同じＢＭＳ No.12でも69.7％から41.7％と脂肪含量には大きな差異があり、このバラツキがサシの形状に少なからず関わっていることが明らかになってきております。新しい価値観のもとではＢＭＳ No.は同じでも、ＭＵＦＡ含量が高く粗脂肪含量は適度な枝肉を高く評価していただきたいものです。

当然のことながら、粗脂肪含量の増加により、良質のタンパク質であり呈味成分の供給源である粗タンパク質含量が低下することになります。ロース芯断面の粗タンパク含量の平均は11.3％となっており、19.3％から5.7％まで粗脂肪含量と同様に大きいバラツキが認められました。前述したＢＭＳ No.は同じ12であっても、粗脂肪含量69.7％の枝肉の粗タンパク含量は高々5.7％に過ぎず、他方41.7％の枝肉は13.6％の粗タンパク含量であり、このことからもどちらがグルメ食品としての価値が高いかは歴然としております。このように、格付け数値だけでは見えない牛肉の品質を見える化することが、新たな価値観の醸成に繋がり、改良目標の多様化、ひいては和牛集団の遺伝的多様性に貢献することは間違いないでしょう。

種牛の部ではすべての区に分娩間隔などの条件が課されました。加えて、地域の生産を担う和牛集団の特徴を引き出すために、若雄や繁殖雌牛群、高等登録群、総合評価群では系統や産地の条件が付加されております。世界的な気候変動やロシアによるウクライナ侵攻のような地政学的リスク、円安などの為替変動により飼料価格など生産資材や燃料が高騰するなかで、安定的に和牛生産を行うためには、種牛性を向上させ、繁殖能力や飼料利用性など生産効率に直結する能力のレベルアップが必要ですが、このためには地域の活性化につながる特徴ある系統を発掘し、これを全共の場に展示して、日々の改良増殖につなげていただくことが重要になります。

出品牛の多くは、発育や体積などは宮城全共

に比較して遜色のないサイズを維持しつつ、輪郭鮮明、品位に富む個体が多く種牛性の一段のレベルアップが確認できました。このような出品牛を地域の繁殖集団の中核として、開催テーマに掲げた「和牛新時代」の和牛力である繁殖性や飼料利用性の向上につながることを期待したいものです。とくに地域の特徴を求めた繁殖雌牛群では、母系３代にわたり出品道県内で生産・保留されてきた雌牛３頭からなる雌牛群18組を出品いただきました。全体の初産月齢の平均は22.8ヵ月、分娩間隔の平均は365日であり、半数にあたる９組の雌牛群の平均分娩間隔が365日以下であった点は高く評価でき、出品区の狙いに沿った代表牛は地域かがやく和牛力のモデルとしてふさわしい雌牛群と言えます。現在、全国の平均分娩間隔は406.8日であり、10年前に新たな種牛審査標準を制定した長崎全共当時の416日に比べて10日程短縮されております。１年に１日の牛歩ではありますが、全国規模でみれば大きな１日であります、種牛性の優れた雌牛の選定保留を推進していただき、次回全共までに400日を達成していただきたいものです。

第12回全共鹿児島大会を終了して、全共はこれまでの伝統を引き継いだ和牛の改良進度の実証展示の場であるとともに、和牛の生産から消費までに関わる関係者が集い、オールジャパンで和牛の生産振興の役割を担うイベントになってきたとの思いを一層強くいたしました。５年後の第13回全共北海道大会に向けて新たな一歩が始まります。今次全共の成果を土台に、登録ならびに育種改良事業を推進させ、安定的な生産基盤を確立し世界の肉用種和牛としてさらなる飛躍への原動力となるべく、産地における会員農家はじめ関係者の皆様の地道な改良増殖への取り組みが、実りある５年となることを期待しております。

種牛の部名誉賞　鹿児島県　姶良和牛育種組合　（第４区　繁殖雌牛群）

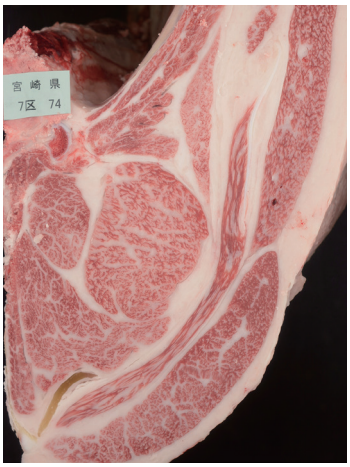
出品番号：136「やすこ」号
出品者：鹿児島県姶良郡湧水町
拵　正人

出品番号：137「てるはな」号
出品者：鹿児島県霧島市福山町
藤山　粋

出品番号：138「さき」号
出品者：鹿児島県霧島市福山町
落合　新太郎

肉牛の部名誉賞　宮崎県　種雄牛：「第５安栄」（第７区　脂肪の質評価群）

出品番号：73「尚栄」号
出品者：宮崎県西臼杵郡高千穂町
佐藤　孝輔



出品番号：74「弥土５２の３」号
出品者：宮崎県小林市
有限会社馬場牧場

出品番号：75「第３３凛太郎」号
出品者：宮崎県えびの市
神田　譲市

令和４年度優良和牛改良組合の表彰について

「認定和牛改良組合および育種組合表彰規程」並びに和牛改良組合強化委員会の推薦に基づき、下記にて令和４年度の表彰組合を決定し、第12回全国和牛能力共進会最終比較審査会場で表彰を行いました。

①分娩間隔の部

組合内供用中雌牛の平均分娩間隔の平均値が全国の上位15組合を表彰しました。

北海道	浜益和牛生産改良組合
山形県	最上町和牛改良組合
新潟県	阿賀・阿賀野和牛改良組合
岐阜県	郡上和牛改良組合
〃	南飛騨和牛改良組合
島根県	西いわみ和牛改良組合
長崎県	鷹島町和牛改良組合
〃	生月町和牛改良組合
長崎県	小値賀町和牛改良組合
〃	長崎西彼和牛改良組合
〃	宇久町和牛改良組合
〃	田平町和牛改良組合
〃	鹿町小佐々和牛改良組合
鹿児島県	根占町和牛改良組合
〃	吾平町和牛改良組合

②分娩間隔・飼養管理技術の部

分娩間隔の育種価評価において組合内の農家の「農家の効果」が高かった５組合を表彰しました。

北海道	安平町和牛生産改良組合
〃	浦河町和牛改良組合
兵庫県	美方郡和牛改良組合
〃	養父市和牛改良組合
〃	朝来市和牛改良組合

令和４年度登録関係統計より

現在、全国で飼養されている繁殖雌牛の状況を調査しました。

令和４年7月現在で、全国で飼養されている繁殖雌牛は、黒毛和種592,646頭、褐毛和種（高知系）837頭、無角和種80頭です

■登録種類別頭数

品種	登録区分	頭数（割合）
黒毛和種	基本登録	298,356 頭（50.3%）
	本原登録	285,375 頭（48.2%）
	高等登録	8,915 頭（ 1.5%）
褐毛和種	基本登録	691 頭（82.5%）
	本原登録	137 頭（16.4%）
	高等登録	9 頭（ 1.1%）
無角和種	基本登録	80 頭（100%）

■繁殖雌牛の父牛別頭数（上位10頭、黒毛和種）

父牛名号	頭数	割合（%）
安福久	64,542	10.89
百合茂	39,601	6.68
美国桜	36,473	6.15
華春福	30,904	5.21
美津照重	22,247	3.75
耕富士	20,461	3.45
幸紀雄	19,755	3.33
勝忠平	19,572	3.30
隆之国	16,229	2.73
美穂国	14,116	2.38

■初産月齢・分娩間隔の現状（黒毛和種）

	平均（標準偏差）
初産月齢（ヵ月）	25.3（ 5.23）
分娩間隔（日）	406.8（66.72）